

チャオ・ベトナム

JAPA VIETNAM 会報

NO.46

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2013年10月26日

- ◆意思を持ち、働きかけ、そして続けること.....1
- ◆ツアーについての分かち合い.....5
- ◆子供達の未来に夢と希望を.....2
- ◆お便りをいただきました.....6
- ◆新たな命と出会って思うこと.....3
- ◆ご寄付をありがとうございました.....7
- ◆心を広く開けば私たちはたくさんの愛を感じることができる.....4
- ◆会計報告など.....8

2013年ベトナム視察ツアー 意志を持ち、働きかけ、そして続けること

小野 浩美



8月23日(金)から9月6日(金)までの2週間、ベトナムツアーを行いました。通訳を合わせ総勢19名が参加しました。今回特筆すべきことは、参加者の半数以上が在日や現地のベトナム人だったことです。ベトナム人に私達の活動を見てもらうことは、とてもうれしいです。もう一つのトピックは、北のハノイから南のホーチミン市まで、はじめて列車で移動したことです。1,700キロ30時間の旅でしたが、ビン駅で途中下車し支援先を訪問、そのあとニャチャンで一泊し鋭気を養いました。今回は支援金を集める過程でも、新しい取り組みがありました。3月段階で支援金が足りそうもなく、四谷聖イグナチオ教会、大和教会、藤沢教会に集まるベトナム人カトリック共同体の人々に、ジャパ・ベトナムの活動を紹介し、寄付をお願いしました。日本での生活は決して楽ではないと思われるのに、たくさんの寄付を寄せていただきました。これら新しい事態が作られたのは、若いスタッフの積極的な働きかけがあったことによるものと考えています。

20数年前ベトナムを訪問した女性カメラマンが、現地に出会った人達から支援を頼まれ、帰国後なんとかできないかと奔走する中で、ジャパ・

ベトナムは誕生しました。1991年に私が初めてベトナムを訪れた時、日本との経済格差は歴然としていました。プロジェクトの責任者と会って話を聞きましたが、相手の腹の内は見えず、何を信じて支援をしていけばいいのか悩みました。20年交流を重ねる中で、彼らが感じていることや考えていることがだんだん見えるようになり、今では彼らに共感を持つまでにになりました。

この20年でベトナムはめざましい経済成長を遂げました。ですが、経済成長のめぐみはすべての人に等しく降りそそぎはしない、そればかりか災いさえ振りまくことを、日本でもベトナムでも見てきました。その理不尽さを、そのままにしておきたくはありません。その意志に支えられて、ジャパ・ベトナムの活動は続けられてきたと感じています。

ジャパ・ベトナムのツアーは、私達の活動やツアーに興味を抱くすべての人に開かれています。参加者がツアーの中で何かを感じ、糧にさせていただいたら幸いです。

参加者の意見、感想を2号に分けてお届けします。

◆◆◆会計報告◆◆◆

(2013年3月1日~2013年9月30日)

募金会計		活動費会計	
収入		収入	
一般会費	1,413,471	活動費寄付	66,000
賛助会費		バザー売上	0
助成金	300,000	ツアー残金	5,000
普通利息	22	雑収入	1,316
雑収入	0	小計	72,316
小計	1,713,493	支出	
支出		活動費	26,696
支援金	2,010,000	印刷費	1,495
送金手数料	0	文具資料費	1,050
小計	2,010,000	通信費	16,430
前期繰越金	439,935	小計	45,671
当期収支	-296,507	前期繰越金	66,771
次期繰越金	143,428	当期収支	26,645
		次期繰越金	93,416

<会計の説明>

◆今年のベトナムツアー残金93,500円を寄付金に繰り入れました。

【助成金内訳】

◆高野道郎メモリアルジャパナムプロジェクト 300,000円
ビンフック省少数民族子ども寮へ150,000円、ハウザン省聖ヨセフ小学校へ150,000円を支援しました。

【支援金内訳】

◆カオバン省保健プログラム 220,000円
◆ゲアン省診療所 220,000円
◆ビンフック省少数民族プロジェクト 220,000円
◆ホーチミン市AIDSプログラム 220,000円
◆ホーチミン市AIDS診療所 220,000円
◆ソックチャン省ダイハイ・道路 220,000円
◆ソックチャン省バックハイ・家建築 220,000円
◆ハウザン省聖ヨセフ小学校 250,000円
◆カマウ省家建築 220,000円

JAPA VIETNAM をご支援ください

JAPA VIETNAMにご支援いただくには、以下の三つの方法があります。

- 一般会費 年間1口(2000円)以上
- 賛助会費 金額・時期ともご自由に
- 活動費寄付 活動費の支援(金額自由)

どれになさるかはご自由にお選びください。ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。会費をお振込みいただいた方には、振込の半券で領収書とさせていただきます。領収書が必要な方は、振込用紙の通信欄の「口領収書必要」の口にチェックを入れてください。事務費削減にご協力いただけると幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100-8-118761
JAPA VIETNAM

【銀行をご利用の場合は】
三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店
東京女子医大出張所
普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

紙名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」(chào)とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたいという、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム (日本ベトナム民間支援グループ)

JAPA VIETNAM

(Japanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1
岐部ホール4階
イエズス会社会司牧センター内

電話 03-5215-1844
FAX 03-5215-1845

e-mail:chao@japa-vietnam.org
http://www.japa-vietnam.org/

初めて JAPA Vietnam のツアーに参加し、各支援先の現況に自分自身の目で触れてきた。相手を直接現場で知ることが、更なる理解に如何に大切かよく判る。

今回のツアーで、ベトナムの道路は整備されフェリーが無くなり、どんな地方に行ってもホテルで Wi-Fi が繋がり、今昔の差に驚いた。経済成長と共に医療・社会保障の充実も図られている。ミャンマー、ラオス等で支援活動をしている知人から「羨ましい、さすがベトナム」との声も聞いた。しかしながら、その恩恵が行き渡らない人々、見放されている人々が随所に見られる。

1. Long Dien プロジェクト (Binh Phuoc 省) : 少数民族の子供達の寮

Long Dien はホーチミン市から北方へミニバスで片道約 4 時間、カンボジア東部と国境を接する Binh Phuoc 省にある。この地は中部高原地帯と称される地域の一角で、少数民族が多く暮らす地域。この近くでは少数民族の Xtien 族、Mnog 族が暮らしている。この寮で少数民族の子供達(98 人)を受入れ、地域の学校(小学校-高校)に通わせている。

寮を運営してる平和の元后修道女会から寮の現状の説明を聞き、強く印象に残ったのは少数民族の特殊性です。少数民族の村で育った子供達は、出生届が無い事が多く、言葉も独自の言語でベトナム語は出来ない。そして大半の子供は卒業後自分の田舎に戻る。外に出て働く事は無く、出ても 1-2 ヶ月で戻ってしまう。これらが示すのは、生活の全てが自分の村(200 人前後)と同じ部族間の中で回り、出生届ですら出さずに済む。言葉のハンディキャップは大きく外部世界では生活が厳しく、慣れ親しんだ田舎に戻る事になる。

このような社会の中で、親達が子供の教育のため寮に出すのは、大きな決断だと思う。子供達はこの寮に入り、正規の学校に通い友を作り、全く違う世界を見て育ち、村に戻ることで徐々に村の生活は変わっていく事でしょう。子供達には、多様な世界がある事、知の集積がある事、人間が創り出す美がある事に、少しでも触れてもらいたい。

今年度は老朽化したカシュウナツツの木を伐採し跡地にゴムの木を植栽、寮運営の費用を作り出すプロジェクトへの支援を行った。寮から赤土

の道を後にして帰途に就くと、近隣には至る所にゴムのプランテーションが見える。良い収穫が得られますように。

2. Phung Hiep プロジェクト (Hau Giang 省) : 貧しい家庭の子供達の小学校

Phung Hiep はホーチミン市から南西に直線距離で約 200 km、メコン川の主流である Song Hau の下流、海にも近い Hau Giang 省に位置する。まさにメコンデルタの最深部と言える。学校の訪問には途中ミニバスから船外機付き小さなボートに乗り継ぎ、縦横に走る水路を進んだ。木の丸太を渡しただけの橋が残るような所です。この地域は農業以外には産業は無く貧しい家庭が多い。学校に行けない子供達のために Phung Hiep 教会が 20 年前に無認可で設立し、6 年前に漸く政府の認可が取得できた。現在、学費の減額・免除措置も多く運営費に不足が生じている。JAPA Vietnam はこの一部を補助した。

支援先からは、校舎の補修、黒板など機材の拡充、教員給与の補填など必要で、5 年間の継続支援の要請があった。期間を設定する計画性と、将来のパソコン教室の導入など意欲的なお話しが聴けた。JAPA Vietnam の支援で学校運営問題だけでなく、資金問題に費やす時間がセーブされ近隣の社会問題への時間も取れると感謝された。児童達は清潔な服装で明るく楽しそうに我々を迎えてくれた。

今回上記の二つの支援先教育現場を回り、パキスタンの少女 Malala さんが国連総会で訴えた言葉「Education First」を思い出す。教育は未来に直結しています。



Phung Hiep の子供達

2013 年 3 月 1 日 ~ 2013 年 9 月 30 日までの会費・寄付納入者のお名前です(敬称略)

青沼 酉子	品川区	小池 美恵子	国分寺市	野本 佳子	新宿区
安藤 勇	練馬区	高野道郎	メモリアル “ジャパナム” プロジェクト	ハ・ティ・オアン	
飯田 幸子	足立区	駒込 直美	京都市	橋本 直樹	横浜市
イエズス会大船修道院	鎌倉市	斎藤 彰	川崎市	畑中 雅信	清瀬市
イエズス会駒場共同体		佐竹 道子	茅野市	服部 栄子	豊島区
イエズス会社会司牧センター		JESSIE 田山	足立区	春のチャリティコンサート	
匿名	江別市	澁谷 節子	足立区	福井 武	市川市
逸見 裕一	さいたま市	篠崎 翠	新宿区	藤沢カトリック共同体	
出原 久美子	所沢市	嶋田 弘志	町田市	ヴ・ヴィエット・トアン	
出村 俊輔	三郷市	白坂 博美	武蔵野市	ヴ・ヴィエット・トゥエット	
今津 葉子	中野区	陣在 拓也		ヴ・ヴィエット・ユン	
大泉 廣	江戸川区	須田 俊子	練馬区	ヴ・ティ・タイン	
大高 幸雄	杉並区	聖母訪問会モンタナ第二修道院	鎌倉市	堀井 美枝子	札幌市
小野 浩美	三鷹市	関谷 英一	足立区	圓山 節子	葛飾区
柏村 忠志	土浦市	タイ・ミン・チャウ	大田区	宮坂 淑子	さいたま市
岸 秀雄	鎌倉市	武市 英雄	相模原市	本山 京子	広島市
グエン・タック	松戸市	武内 清子	横浜市	守口 恵子	小金井市
グエン・ティ・マイ		武永 賢	新宿区	箭島 多美子	広島市
グエン・ティ・ラン・チ		土屋 律子	杉並区	宿沢 恵子	板橋区
グエン・トゥイ・クィン・ニユー	ホーチミン市	戸村 信子	長崎市	柳下 修	横浜市
倉澤 伸子	大阪市	中野 孝文	川崎市	山形 辰史	新宿区
		根岸 寿	神戸市	大和カトリック共同体	
				油木 輝成	足立区
				四谷カトリック共同体	

お便りをいただきました

ソックチャン省バックハイ教会
神父 グエン・ミン・バン

2013 年 9 月 3 日、私はジャパ・ベトナムの支援金 220,000 円を受け取りました。そのお金を現地通貨に換え (44,700,000 ドン)、柱に使う 105 本の竹と、屋根や壁に使う 5,000 枚の葉を購入しました。それを使って、15 軒の貧しい家と働き手のない病弱な老人の家の修繕を行いました。

バックハイ各地の貧しい人々を代表し、私はジャパ・ベトナムが過去何年間、つねに愛を持ってよい状況を作るために支援してくださったことに、心からの感謝を述べさせていただきます。お陰様で、貧しい人々の辛苦は軽減されました。今後もジャパ・ベトナムが分かち合いを続けてくださることを、望んでいます。

2013 年 9 月 30 日

Japa Vietnamと関わりを持つようになったのはある神学生との会話からでした。

20年以上もベトナムの貧しい人々、主にインフラ整備が進んでいない地域への支援をしていると聞き、その現状をどうしてもこの目で確認をしたい、そして日々の仕事以外に今の自分、これからの自分に何ができるのかこのベトナムでの支援活動を通して何か見出せたらとの思いで参加させていただきました。

旅の初日は中国の国境から40kmの距離にあるカオバンという町までHanoiから車を走らせて約8時間の道のりでした。道中では土砂崩れと崖から落ちないかどうか不安もありましたが、無事にカオバンに着いた時はホッとしました。カオバンでは昨年度の活動報告やこれからの活動についての打ち合わせ等をし、病院の訪問と少し都市部から離れた診療所を視察しました。

そしてハノイにもどり列車でVINHにあるフン・チュン診療所の視察もしました。各診療所を訪問して最初に疑問に思ったのは、私たちの支援はいったいどこまで役に立っているのだろうか、そしてどんな効果を人々にもたらすことができたのかということでした。しかし、旅の途中で子供たちの明るい笑顔と現地の人たちの暮らしに接することができ、人々が安心して生活していることを実感できたことで私たちの活動はここに表れていると感じました。

これが私たちの活動の目的で人々が安心して生活できることが根底にあってはじめて子供たちの笑顔があるのではないだろうかと改めて考えさせられました。また、私たちの活動がこれからも子供たちの健康や笑顔をつくっていかれたらと思います。今回、この旅を通して一つ発見したのは私たちの活動は子供たちに希望を与えることができるということです。

多くなくてもいい、皆が今自分にある豊かさを少しでも分かち合えたら、すばらしい世の中になると信じています。

これからも JAPA VIETNAM の活動に力になればいつでも喜んで参加させていただきますのでその時は声をかけてください。また、安藤さんをはじめ JAPA VIETNAM の皆様には感謝しております。



お便りをいただきました

ジャパ・ベトナムの皆さまへ

ビンフック省 ロン・ハ 施設責任者 シスター ゴー・ティ・ミエン

私たちは、ビン・フォック省、フォン・メ・トアットのロン・ハ教会で働いている平和の元后修道女会です。

何よりも、まず私たちは、ビン・フォックのスティン族の人たちを助けるために私たちを援助してくださっているジャパ・ベトナムに心から感謝しています。私たちの近くにいる少数民族のスティン族は 自分の土地を持っていないので米など生活に必要なものを手に入れるために遠くまで出稼ぎに行かなければなりません。それで、ここにいる生徒たちにはぜひとも小学校だけは終了するように頑張ってもらっています。

私たちは次から次へと、たくさんの困難にぶつかります。ジャパ・ベトナムとジャパ・ベトナムを支えている恩人の皆様のおかげで、1軒の家を建て替えられても、まだ何軒かの家は建て替えを必要としている状態です。

私たちが彼らをもっと助けることができるために、これからも、私たちを援助して下さるよう、お願いいたします。ジャパ・ベトナムと恩人の皆様のお仕事がうまく行きますように。

2013年10月1日

「ねえ、こっちに来て。生まれて間もない赤ちゃんがいるのよ」

ジャパ・ベトナムの支援で中庭の一部にかけられた屋根の下で、いっしょに話していた助産師さんが、先に立って診療所の小さな建物の方に歩き出す。出産後何日もたたないお母さんと赤ちゃんの休む病室に、ずかずか入ってよいのだろうか。ためらう私を助産師さんは促し、ベッドに横たわっているお母さんも笑顔で頷く。お母さんの傍らに寝かされた赤ちゃんのどこまでも透き通った瞳は、まだこの世のものの輪郭をはっきりとらえてはいないのだろう、だからこそなのか、大きく見開き、両手と両足もいっばいに広げて、生まれ出た新しい世界の光を一身に受け止めようとしているかのようだ。

私たちが視察したこの日、フンチュン村診療所には、この母子のほかにも、一日ちがいの出産だったという赤ちゃんとお母さんが入院していて、2つの新しいいのちの誕生を祝福することができた。さらに、前述の日差しや雨を遮る屋根の下、診察を待つ人や付き添いの家族のための待合スペースでは、助産師さんだけでなく、薬剤師の男性、そして、子どもの頭の湿疹を診てもらいに来た親子や、初めての子を身籠って8カ月半になる妻とその夫とも、話すことができた。彼ら同士のやり取りを見ても、村人がこの診療所を頼りにし、スタッフに対しても親しみと信頼を感じている様子がうかがえた。そこにはただ、のどかで平和なときが流れているだけのように感じてしまうほどだ。



しかし、この村があるゲアン省は、洪水や台風の被害に見舞われることも多く、ベトナムの省と都市63地域のなかで4番目の人口を抱えながら、その多くが大変困難な状況にある貧しい地方だといわれている。フンチュン村も例外ではなく、1日の収入が1ドルにも満たない人が少なからずいるということだ。私に笑顔で接してくれたそのときにも、お母さんたちの胸には、将来の、もしかしたら明日の心配が広がっていたのかもしれない。

それだけに、村の診療所で顔なじみのスタッフに診てもらえるという環境は貴重であろう。ベトナムでは原則的に貧困世帯への医療費免除の制度はあるが、病院が遠ければ、交通費もかかり、天候によっては悪路に妨げられるし、仕事も休まねばならず、といったこともあって、健康状態が相当悪くなるまで病院の門をたたかない可能性が高い。

ジャパ・ベトナムは2009年度からこの診療所を支援してきた。それは主に、医療器具の購入のような医療の質の向上と、待合スペースの屋根のようなよい環境を整える、といった性格のもので、規模は小さいながらも、ここを利用する村人の利益に直結する支援である。

帰り際、助産師さんから「来年また会いましょう」と声をかけられた。私が「来年はあの赤ちゃんたちは1歳だね」と答えると、彼女はものすごくうれしそうに顔を上げて「そう、1歳だ」と繰り返した。そのとき私の頭には一瞬、あの赤ちゃんたちの成長を確かめに毎年ここを訪れる、というイメージが湧き起こった。それは、ものすごく甘い誘惑である。もしも口に出して言ったら、先方をさらに喜ばせる類のものだ。

しかし、この地方には、まだ診療所のない村もあり、規模も設備もずっと低いレベルの診療所もあるはずで、ベトナム全体を見ても、胸の痛くなる状況がまだまだたくさんある。もちろん、全てを支援することは不可能なのだから、一か所を持続して見守り、足りない部分を毎年補うことで徐々によりよい状態を目指していくという息の長い支援にも、大きな意味がある。とはいえ、いつかはそれまでの成果を置き土産にあっては現地の努力に任せて去る覚悟というのは、支援開始のときから必要な、ひとつの目標とすべきものではないか。その時期の見極めは簡単ではないが、ジャパ・ベトナムが、よい結果と将来への希望を手渡して別れを告げる日が来たなら、それはあの赤ちゃんたちにとっても、よいことなのだろう。

今回のツアーに、20代、30代の若い人たちが何人か加わったことを、とてもうれしく感じた。今後も、若い人たちの参加を切に願う。見て、出会って、感じて、疑問を持って、批判しても、ツアーが終わればベトナムも支援もどこかに置き去ってしまってもよいのである。その経験は、きっと小さな種となって見えないどこかに残り、いつか芽を出して役に立つこともあるかもしれない。やがて成長していくあの赤ちゃんたちといっしょに、未来の世界をつくりあげていく中心になるのは、ほかならぬ若いあなたたちであるのだから。

他のツアー参加者とともに、街路をさんざん歩きまわって「墓村(はかむら)」を訪れた日に、私は、まさにこの文のタイトルのように感じました。「墓村」という地名は、むかし墓地であったことに由来するのですが、今では貧しく困窮した人々が、そこに仮住まいしています。「仮住まい」という言葉を使ったのは、彼らは、家の権利書も持たず、戸籍も持たないからです。戸籍がないということは、同時に、公立の学校に通うこともできず、役所や会社で雇ってもらうのも難しいということの意味しています。そこにもうかなり長く住んでいるというのに、権利書がなければ、家を建て直したり、売ったりすることはできないのです。

この人々はいったい何者なのでしょう。彼らは、国土のなかの異なるいくつもの地方の出身者です。故郷を離れサイゴンにやって来て、生活の糧を求めて様々な仕事をし、あちこちを転々としてここ「墓村」に流れ着き、自ずと集落をなして住むようになったのです。おそらくそれが定めだったのでしょう。選ぶことなど、誰にできたでしょうか。

この日私が会った人たちは、てきぱきと仕事をこなす、頑張り屋の、活動的な女性たちでした。その顔にも言葉にも両の手にも、至るところに苦勞の跡がにじみ出ています。けれども彼女たちには、苛酷な運命を乗り越えようとする意志にあふれた笑顔が、いつもあります。前に進もうとするこのような力を、彼女たちのなかに認めることができるのは、バン・グループが、ジャパ・ベトナムからの支援も受けながら、この地区の多くの家族に心を寄せてきたからではないでしょうか。彼女たちは、縫製や手仕事や売買などを生業とするための資金を借りる、という方法で支援を受けています。



「墓村」女性自助グループのリーダーと夫

「空腹時のひと切れは、満腹時のひと包みにも等しい」ということわざがあります。その資金は、彼女たちにとって真に貴重なものであり、いうならば、家族とともに生きていくために、近い将来貧困から抜け出せるよう子どもが学校へ行くために、さらには、彼ら自身が安定した立場で社会参加できるようになるために、すがりついている浮きのようなものです。

彼女たちと会って考えをめぐらすうちに、次のような問いが浮かんできました。「この人たちの一日はどのように展開していくのだろう」「彼女たちの苦しみと望みとは、どのようなものなのだろう」「仕事を失ったとき、いったいどうやってやりくりするのだろう」私も女性であるのでわかるのですが、所帯の収入の範囲でやりくりして、家族全員の必要に応じて家を切り盛りするというのは、少しも容易なことではありません。ゆえに、このような貧しい人々への社会の関心が、とても必要です。この人たちはとても傷つきやすいので、物質面と精神面、双方についての関心が必要とされます。

皆様は、おわかりになるでしょうか。ほんの一時その小さな地域を歩いただけで、私には、一方の側にはきれいなものすごく高いマンションが、まるでもう一方の側にある低くて粗末な家々の地区「墓村」を見下すようにそびえ立っているという、まったく相反する二つのイメージが、よく理解できるようになりました。しかしまた、不思議にも私は、「墓村」が、「皮膚が肉に変わる」というベトナムでよくされる言い回しが表わすような大きな変貌を遂げつつあり、時を得たいいくつかの支援プロジェクトのおかげで、人々は頑張っって少しずつ乗り越えていこうとしていると、感じたのです。たとえばジャパ・ベトナムの支援についていえば、効果的な意味のあるアクションであり、「魚を与えるよりも釣竿を渡した方がよい」とよく言われるような、長い目で見た目標に向かっていきます。それは、自立していつでも頑張っって進んでいけるための職業を、人々に手渡すという方法です。

私は、このような有意義なプロジェクトがもっとたくさんあることを祈っています。貧しく困難のなかにある人々が、いつも健康で、いっぱい頑張れるような機会に恵まれ、平穩で喜びのある生活を送れますように。

私は今年、ジャパ・ベトナムのツアーに初めて参加させていただきました。私はジャパ・ベトナムで一年前から一人のスタッフのメンバーとして関わっていますが、ツアーに初めて参加するチャンスがあり、喜んで行ってきました。私たちは、二週間でベトナムの北から南まで回りました。そして、今回こそジャパ・ベトナムのスタッフの苦勞が分かりました。ベトナム滞在中はいつもミニバスで動きましたが、二週間ほどミニバスの中で座って、運動不足なので、私はカマウからホーチミン市に戻る時、体調を崩してしまいました。今回のツアーに参加した方々の中で私は一番若いので、体調を崩してしまって、恥ずかしかったです。これは一つの例だけですが、このことを振り返って考えてみると、一緒に参加した年輩の方々を本当に尊敬します。なぜなら、こんなにきついにもかかわらず、二十年以上前から毎年続けてベトナムを訪問して、長い旅をしながら人々と出会って支援しているからです。

この短い記事の中で、私はカマウについて書いてみようと思います。カマウはホーチミン市から約400キロ離れている地方です。この地方は海に近いので、メコン川の他の地方と違ってお米ができません、貧しい人々が多いです。この周辺で働いている神父は、何年か前からジャパ・ベトナムの力を借りて、貧しい人々のためにいろいろな活動をおこなっています。今年度は、ジャパ・ベトナムからの支援金で、貧しい二人の高齢者のために二軒の家を建てました。私たちはこの二軒の家まで案内してもらいました。一軒の家は八十歳を超えたおばあさんのものです。このおばあさんは貧しくて、心の病がある娘さんと一人のお孫さんと一緒に生活しています。三人ともあまり仕事ができなくて、大変困っています。この家を建てるために十万円がかかりました。この家は約10年間使えるそうです。おばあさんは、私たちを通して、ジャパ・ベトナムの会員の皆様にお礼の言葉を伝えながら、ほっとした顔をしていました。周りに住んでいる人々は笑いながら、おばあさんにこう言いました。「おばあちゃん安心してね、これから雨が降っても大丈夫ですね。これから人生の最後の日まで安定した家で過ごすことができるね。」と。

もう一軒の家は今年七十歳のおばあさんのための家です。この家は私たちが訪問した時はまだ完全に建てられてはいませんでした。このお

ばあさんは一人で生活しています。彼女は他の地方から何年か前にここに来て生活しているので、財産は何もありません。毎日、空ビンや空き缶を拾って、売って、生活しています。二人のおばあさんのことを聞いて、彼女たちの生活環境を見て、もし、できれば、もっと彼女たちを応援したいという気持ちになりました。なぜなら、彼女たちに安定した生活をしてもらいたいからです。高齢で、面倒を見てくれる人がいなくて、毎日の生活のために苦勞していることが、本当につらいのです。

この記事が終わる前にもう一つのことを分かち合いたいと思います。それは、今回のツアーで出会ったベトナムでの支援のリーダーたちのことです。ジャパ・ベトナムは殆ど現地にはいないので、結成当初から、現地にいる信頼できるリーダーたちに頼ってきました。このリーダーたちは長い間ジャパ・ベトナムと協力するので、単なる協力者ではなく、仲間たちなのだと感じました。今回のツアーも私たちが心から迎えてくれました。カオバンからカマウまでツアーができたのは彼らのおかげです。私たちは日本から十人ぐらいベトナムに行きましたが、ベトナムではこのツアーのために何十人もの人たちが計画を立ててくれました。彼らに感謝の気持ちでいっぱいです。

この素晴らしいツアーに参加できて、いろいろな人々と出会って、いろいろなことが勉強になって、本当にありがたかったです。このツアーの体験は私の人生を豊かにしてくれたと感じています。

皆さん、どうもありがとうございました。



カマウにて